

## 現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和5年9月

### （1）肉用牛研修会で飼養管理技術や自給飼料生産等の重要性を学ぶ

9月12日、沖永良部家畜市場で肉用牛修会を開催し、87人が参加しました。農業普及課から「母牛の繁殖管理と草づくり等の飼養管理技術について」、JAあまみから「インボイス制度の影響について」それぞれ1時間の研修内容でした。出席者は子牛価格の下落や飼料費高騰と経営状況の厳しさを改めて認識するとともに、「母牛繁殖率向上、自給飼料生産による飼料費低減への取組がいかに重要であるかを再認識する良い機会となった」との声が聞かれました。

### （2）テッポウユリ「咲八姫」の作期拡大を検討

9月11日、沖永良部花き専門農協で県育成八重咲きテッポウユリ「咲八姫」の栽培検討会を開催し、生産者や園振協本部を含む関係機関の21人が参加しました。令和5年度は、作期を拡大し3～4月出し栽培を行い、その栽培管理等について検討しました（昨年度の出荷時期は4月中～下旬出しのみ）。生産者はテッポウユリの生産拡大の起爆剤として非常に期待しており、農業普及課は今後も重点的に安定生産に向けた支援を行う予定です。



### （3）トルコギキョウの経営安定に向けた自家育苗体系の確立支援

園振協本部（フラワーC、農開総C花き研究室、徳之島支場、経済連）と連携して管内のトルコギキョウ自家育苗体系表や品種の収益性指標を作成するため、与論（9月7日～8日）、沖永良部（9月12日）で自家育苗の実態調査を行いました。調査の結果、育苗土、品種、水管理、施肥方法等は、生産者ごとに異なることが明らかになりました。また、全戸の重要課題として、用土の藻類付着が挙げられました。奄美地域のトルコギキョウのマニュアル化を目指して、今後もさらに栽培情報等を収集していきます。



(4) スプレーギクの無線式小型耕うん機を実証

スプレーギクの畦連続使用技術（8月出し後、畦を壊さず連続して12月出しを栽培）は、全面耕うんより6割省力化でき、沖永良部島では現在4ha以上普及しています。9月8日、和泊町役場と連携し、スプレーギク生産ほ場でさらなる省力化を図るために、無線式小型耕うん機の実証を行いました。その結果、慣行より作業時間の短縮や体への負担軽減が実現できると高い評価を得ました。今後も継続して調査し、総合評価を行う予定です。



(5) 花き専門農協の令和4年度の販売金額がスマートフラワーで好調

9月6日、和泊町防災拠点施設やすらぎ館で3年ぶりに人数制限無しで沖永良部花き専門農協総会が開催され、約70人が参加しました。令和4年度全花き販売金額は、スプレーギクやソリダゴのスマートフラワー規格出荷が販売好調で、前年度と比べ約8%増でした。総会后、熟練者と新規就農者がリアルタイムに映像・音声を共有できるスマートグラスの実演会があり、生産者の関心を引いていました。



(6) 知名町花卉振興会が市場と花き生産の取組について意見交換を行う

9月4日、知名町フローラル館で3年ぶりに対面の第40回知名町花卉振興会の通常総会が開催され、60人が参加しました。令和4年度全花き販売金額は、生産者の減少により約1.8億円で、前年度と比べ約14%減でした。今年度は、新規栽培者によるグラジオラスや露地ユリ「スカイホルン」の生産量増、既存の生産者によるテッポウユリ「咲八姫」の生産量拡大も見込まれ、花き産地の活性化が期待されます。また、花き市場と安定出荷・安定価格について活発な意見交換が行うことができました。





#### (7) 奄美群島青年農業者交流会で「儲かる農業」について検討する

9月7～8日に知名町フローラル館で、奄美群島青年農業者交流会が開催され、奄美群島の青年農業者14人が参加しました。1日目には、「儲かる農業を目指して」というテーマでグループディスカッションを行いました。検討後、グループ毎に結果を発表し、課題としてあがった人材不足や販売価格の安定化などの解決策として、北海道などの南北連携による人材確保や個販の取組等が出されました。2日目は、サトウキビのビレットプラントや経産牛肥育の取組について現地視察を行いました。来年度の当交流会は、徳之島で開催予定です。



#### (8) ハイブリッド講座で新規就農者・若手農業者が農業の基礎を学ぶ

就農後間もない農業者の経営に必要な基礎的知識の習得を目的とした「新規就農講座」を沖永良部事務所で開催しました。内容は、8月17日「農業経営の基礎」「畑かんによる水利用」、9月6日「家畜飼養の基礎」「堆肥製造の留意点」、9月8日「病害虫対策」「生産工程管理」「土壌肥料」「農作業安全」の8項目でした。参加者は、延べ46人で、与論町からも参加できるようWeb開催を併用しました。講義終了後は、多くの質問が寄せられ、充実した講座となりました。



#### (9) 与論町若手さとうきび農家が高単収に向けた栽培管理について学ぶ

9月11日、与論町でさとうきび栽培研修会を開催し、若手を中心としたさとうきび農家13人と関係機関8人が出席しました。最初に現地でビレットプラント実証ほや高単収ほ場でのかん水状況や雑草防除等の栽培管理の実態を学びました。その後の室内研修では、昨年度の土壌分析結果(142ほ場)から、意外と低pHほ場が多いことを踏まえた土壌改良の必要性について学びました。農業普及課は、今後もさとうきびの生産安定を支援していきます。

